

2	教育が	あぶない
0		
0		
8		

大阪・門真市立中学校

産経新聞・右翼・府教委が「偏向教育」攻撃

国歌斉唱「不起立」は生徒の「内心の自由」だ

卒業式で生徒のほぼ全員が国歌斉唱時に起立・斉唱しなかった大阪・門真の市立中学校。教員が指導した疑い、との右派メディアの報道に右翼が便乗し、教育委員会が追従。「愛国心」の強制は、大阪で初の職務命令にまで発展した。「内心の自由」を貫いた生徒たちにどう説明する！

村上恭介

発端となった『産経新聞』の記事は、関西では三月二七日付の朝刊社会面トップに大きく掲載された。「国歌斉唱 起立一人」^{かしま}「教員が指導か」などを見出しに、門真市立第三中学校の卒業式（三月二三日）で、約一七〇人の卒業生のうち男子生徒一人を除く全員が国歌斉唱時に起立せず、出席した三年生の担任ら一人のうち九人も起立しなかったと報じた。そのうえで、学校の調査に対して一部の教員は「生徒に国歌の意義について説明し、『式で歌うかどうかは自分で判断しなさい』と指導した」と話していること、大阪府教育委員会は「偏向教育ととられても仕方ない」「厳正に対処したい」とコメントしたことを紹介した。

この新聞らしく、生徒自らの判断による正当な行動をさも不祥事であるかのように描き、その原因は教師の指導にあると憶測して、処分を当然視する趣旨の記事となっている。記事が掲載されるや、門真市役所には即日、右翼団体の街宣車一台が

生徒たちの自主性を無視

門真三中の卒業式のどこが問題なのか。

市教委によると、卒業生一七二人のうち一六〇人が出席し、君が代斉唱の際、生徒一人を除く卒業生全員が一斉に着席した。教員は出席した三年生の担任五人と副担任六人のうち、八人（『産経』記事の九人は誤

り）が着席した。この事態にPTA会長が怒り、校長から報告を受けた市教委は「生徒が一挙にどっと座ったのは不自然」として、なぜそうなったのか教員全員から聞き取り調査をするよう校長に指示したという。

だが、門真市の現役中学教師の一人によれば、卒業生の多くが国歌斉唱時に着席することは、市立中学の卒業式では三中に限らず過去に何度かあった。「集団としてよく物事を考える学年なのかそうでないかの違い、あるいは人間的つながりの密度の差が起立・不起立のときに表れるのであって、国歌への生徒の対応は学校や学年ごとにさまざまです。今年の三卒業生は、結束が強かったのでしょう」。自らも不起立を貫くこの教員は、そう指摘した。

だとすれば、学習指導要領にもと

『産経新聞』3月27日付・社会面トップで報じた記事（右側）で処分を煽り、同4月2日付では門真市教委が「取材に応じていない」にもかかわらず「担任全員 指導認める」と報道。

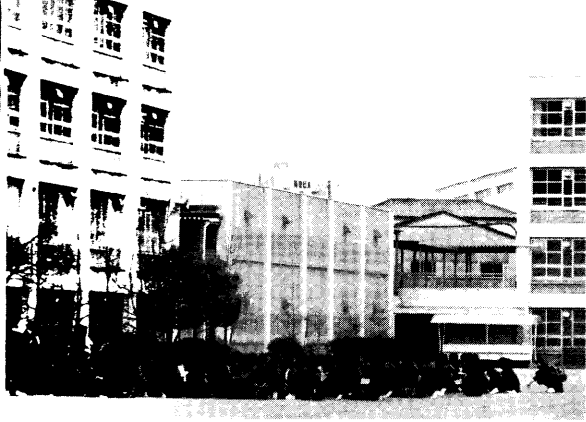


づいて「国歌の意義」を学びつつ、自分で考えて着席した生徒たちの行動は、その自主性が評価されこそすれ非難される筋合いはない。「偏向教育」ととられても仕方ない「教員が不起立を指導した可能性はある」など

の見方は卒業生を侮辱し、「生徒の自主性の尊重」を定めた指導要領をも無視する議論というほかない。

三 中関係者によると、同校教職員
の所属組合は日教組（日本教職員組合）、全教（全日本教職員組合）、大阪教育合同労組の三つに分かれ、大阪府内の公立学校の多くがそうであるように非組合員が多い。卒業式に出席した教員一人も同様で、君が代斉唱の際に八人が着席したのは組合としての対応ではなく、一人ひとりの判断だった。教師集団が全生徒に不起立を促すなど、学校現場の実態からしてありえぬ妄想である。

校長、市教委による関係教員への聞き取り調査は卒業式直後からこれまで三回行なわれ、調査途中として内容は公表されていない。市教委は「処分の対象になるか、府教委と相談して検討する」との立場である。



入学式当日、校庭に集まる新入生ら。4月7日、大阪府門真市立第三中学校で。(写真撮影／筆者)

ところが、『産経』は四月二日付朝刊でまたも大々的な扇動記事を社会面に掲載した。内容は「担任全員指導認める」の大見出しで、卒業生を受け持っていた五人の担任が市教委などの調査に対し「君が代を歌っても歌わなくてもいい」「自分自身の考えで判断しなさい」「親御さんと相談して決めなさい」と生徒に話していた、というものだ。仮にこれが事実としても、子どもたちにごく当たり前の権利を説明したに過ぎず、「不起立を促す指導」と断じるのは歪曲・捏造（ねつぞう）というべきだろう。

「教師は政府の指示に従え」？

処分を煽る報道と右翼の策動に抗して、市民や教職員はただちに行動を始めている。その先頭に立つのが、連帯ユニオン近畿地本委員長でもある戸田久和・門真市議会議員（無所属）だ。

戸田議員は、扇動記事を書いた『産経新聞』、その情報源である府教委などを「逆取材」し、事実を基に相手側の矛盾を暴きつつある。報道翌日の三月二八日、同議員は記事を書いた府教委詰めの『産経』記者を訪れ、「教員が内心の自由を生徒に伝えたらなぜいけないのか」と迫った。その記者はこうまくしたてた。「大人が糸を引かない限り、生徒全員が座ることはありえない」「国歌を歌うかどうか自分で判断しなさい、と言

うのは生徒への指導だ。起立すべきでないという考え方を強制している」「公務員は政府の指示に従うのが当然で、それが嫌なら教師を辞めるべきだ。どこの国の税金でメシを食っているのかという話になる」。

公教育の独立性を自覚せず、公立学校教員の人件費の仕組みも知らぬ教育担当記者。その思い込みの強さとレベルの低さに戸田議員は呆れるばかりだった。

一方、府教委小中学校指導課の主任は、一般の人が偏向教育と考えても仕方ないのでは、という記者の仮定的な質問に「そうとられても申し開きができない状況だ」と答えたことを同議員に明らかにした。「偏向教育」は『産経』記者が誘導して言わせた疑いが濃厚だ。

こうした状況をふまえ、戸田議員と市民団体の代表らは四月三日、三中教員に不当な圧力をかけないよう求める要請文を市教委に提出し、聞き取り調査の目的『産経』報道の問題点などを追及した。この席上、市教委は「教員への調査内容は府教委に中間報告を提出した段階であり、『産経』の取材にも一切応じていない」と述べ、なぜ「担任全員指導認める」と報じる記事が出たのか理解に苦しむ、迷惑だと回答した。

処分前提に初の職務命令

四月七日の三中入学式は、右翼街

宣軍が来ることもなく、表向き平穏に終了した。正門前では「日の丸・君が代」の強制に反対する市民らがビラを配り、生徒や保護者のほとんどは抵抗なく受け取っていた。

だが、同日朝、門真市立第三中学と第四中学の入学式に出席した計二十八人の教員には、「国歌斉唱の際、起立する」ことを命じる職務命令が校長から文書で発令された。市教委の学校教育部長に確認すると、事実を認め「違反すれば処分の対象となる」と明言、発令には府教委の指導があったことも明らかにした。卒業式で多くの教員が着席した二つの学校が狙い撃ちにされた形である。

「日の丸・君が代」で職務命令が出されたのは大阪では今回が初めてだ。これまで「職務命令はなじまない」と表明してきた府教委は、右派メディアの扇動を背景に解釈を根本から変え、東京都教委なみの強硬姿勢に転じた可能性がある。

違反者の処分を前提とした職務命令の発令は、それだけでなくとも激しい風圧にさらされる教職員には萎縮効果を与えるだろう。命令が府内各地に広がる懸念もある。政党や労働組合、市民団体が外からどれだけ支援・激励の運動を起こせるか、「内心の自由」をめぐる緊迫した攻防は大阪でも始まっている。

むらかみ きょうすけ・ジャーナリスト。